

子育て中の戦争体験と食糧事情



清水 正子(しみずまさこ)さん (95) 大正 8 (1919) 年 兵庫県生まれ
戦争当時は上新庄地域に暮らしていた主婦。二人の小さな子どもを抱えて空襲から逃れた。

昭和 14 (1939) 年に鳴野から上新庄に引越してきました。今住んでいる場所 (豊新 4 丁目) からもうすぐ近くの場所です。このあたりはとにかく田んぼや麦畑だらけでした。戦争の時には家の前あたりの田んぼの土手に防空壕を自分たちで掘って、そこに避難していましたよ。

とにかく食べるもんがあらへんし、大豆をもろて煎って食べたり、干し芋を煎ったりして栄養を取っていました。このあたりにはセリがよくできたから取ってきて食べたりね。とにかく始末して食べました。私はお産の後やったから歯がぼろぼろでしたね。

昭和 20 年に主人が最後の方の徴兵に招集されてしまって、私は幼子を二人抱えていて不安でした。海軍だったんですが、帰って来た主人の海軍の制服を仕立て直して、子どもの入学式の時に着せたのを覚えています。

戦争の記憶？ そうですね。道ばたに落ちていた空の爆弾を子どもたちと引っ張ったりしたこともありますね。